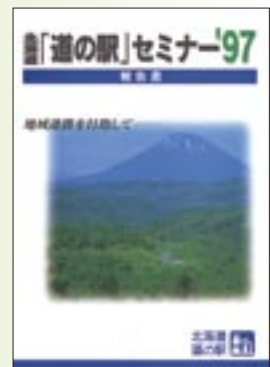


北海道「道の駅」セミナー'97 地域連携を目指して

北海道には、現在46の個性あふれる「道の駅」があります。地域の交流拠点として可能性を秘めた「道の駅」の今後のあり方を、地域連携という視点から深く掘り下げていこうと「道の駅」の関係者や専門家が集合し、喜茂別町でセミナーを開催。終始、熱のこもった意見が交わされました。



地域と道路利用者をつなぐふれあいの場として、最近ますます注目を集めている「道の駅」。道路利用者がひと休みできて、清潔なトイレが利用できる「休憩機能」、地域の情報と道路交通情報等が得られる「情報交流機能」、地域と地域が道を軸に協力し合い、活力ある地域づくりを進める「地域の連帯機能」の3つの機能を兼ね備える複合施設として、個性豊かなにぎわいの場を提供しています。

「道の駅」は平成2年1月に、中国地域づくり交流会主催のシンポジウムで「道路にも駅があってもよいのでは」という提言から出発しました。平成5年4月1日から建設省が登録の受け付けを開始し、全国で103カ所の「道の駅」が誕生。平成9年4月現在で全国に366カ所、北海道では46カ所を数えるまでになりました。これからは「道の駅」を拠点とした交流や情報のネットワーク化を図り、地域連携をさらに強めることが求められています。そこで、去る5月30日、喜茂別町農村環境改善センターにおいて「地域連携を目指して」というテーマで『北海道「道の駅」セミナー'

97』が開催され、「道の駅」を通じた地域連携のあり方が検討されました。

セミナーはまず開催挨拶、来賓挨拶の後、越塚宗孝氏（札幌国際大学短期大学部教授）が「道の駅と地域連携」という題目で、約40分にわたり基調講演を行いました。

越塚氏は、今年の初め日本海側で起きたロシアのタンカー、ナホトカ号による重油流出事故を例にあげ、インターネットでこの事故の情報がリアルタイムに提供されたことで、新しいインフォメーション・テクノロジーが地域の連携の輪を広げていくことを実感したといいます。こうしたインターネットやマルチメディアの発達に伴う社会の変化について語り、一家に一台のパソコン設置をまちづくり事業としている富山県山田村の取り組みをVTRで紹介。観光情報とインターネットという切り口では、オホーツク26や望羊中山の「道の駅」のホームページを取り上げて、情報の中身の大切さを力説しています。最後に持論である「コラボレーションのすすめ」では、「道の駅」46のコラボレーションが進み、地域づくりの希望、地域づくりへの勇気をもって新しい挑戦をしてもらいたいとエールを送り基調講演を閉めました。

次にパネルディスカッションに移り、パネラーである葦沢憲吉氏（北海道大学大学院工学研究科助教授）、鈴木克宗氏（建設省道路局国道課道路保全対策官）、中越準一氏（全国「道の駅」連絡会会長・高知県高岡郡原町）、山本洋子さん（北海道味と旅」代表取締役編集長）、津谷正明氏（北海道地区「道の駅」連絡会会長・喜茂別町長）が壇上に勢揃い。HBCテレビなど多方面で活躍中の野宮範子さん



(フリーアナウンサー)が、コーディネーターをつとめました。

セミナーは“地域連携”をキーワードに3つのテーマで構成され、テーマごとのビデオも紹介。「地域の中で」という最初のテーマでは、「道の駅は休むきっかけを与えてくれるので高く評価する」と葦沢氏が語ると、それに対し「せっかくの施設を各市町村で活かしてないのでは。我が町を身近に知ってもらう機能を考えるべき」という辛口の意見が山本さんから飛び出しました。「スタンプラリーを通して各駅の連携を図りたい」という津谷氏や、「四国でも道の駅には大きな期待が寄せられている」と中越氏のコメントが続きます。葦沢氏は「最近、バイパスが町の脇をぬけていくところが多く、道の駅は町と道の接点という役目を果たしていくのでは？交流拠点として道の駅がうまく機能することがポイント」と課題を提起。熱をおびてきたパネラーの討論に会場内で熱心にメモをとる姿が見られました。

2つめのテーマは「地域連携や交流を目指して」というもので、町と町同士が「道の駅」をきっかけに相互連携をしている実例がビデオに映し出されました。こうした北海道の取り組みに対し中越氏は「四国には31の道の駅があり、スタンプラリーによる連携や、情報発信ができるような整備をしていきたい。オートキャンプ場やライダーの宿泊施設も付随させることを考えている」と意欲的に語り、全国で交流できれば素晴らしいと夢をふくらませます。「地元の問題としてとらえ、地域の人たちが一生懸命汗を流すことで連携が生まれる」と鈴木氏が助言。北大チームの監督として“ツール・ド・北海道”に参加した経験を持つ葦沢氏は「町から町をつなぐステージレースは、道の駅をうまく使える」と期待を込めて提言しました。

「情報、地域からの広がり」という3つめのテーマでは、「ハードな情報はもちろん、フェイス・トゥ・フェイスで答えてくれるソフトも大切。インターネットの利用も考えて」と今後のあり方を示唆する鈴木氏。「ハードより“ハート”を」と山本さんが強調します。津谷氏は「これからは医療関係の情報が道の駅に求められる」と医療情報の必要性を言及し、中越氏が「人と人との触れ合いが感じられる道の駅にしくは」といいます。最後に「地域の一人ひとりが情報の発信者という自覚を持つべき。住んでいる方々が誇りをもって町を説明できることが、情報発信の原点」という葦沢氏の意見をもってセミナーは盛会のうちに終了。(財)北海道道路管理技術センター理事長の柳川捷夫の挨拶で閉会となりました。



道の駅紹介

星の降る里・芦別の情報ステーション

●スタープラザ芦別「星の降る里」をキャッチフレーズにする芦別市は、北海道のほぼ中央に位置します。

「道の駅・スタープラザ芦別」は国道38号沿いにあり、ビデオで市内の見どころを紹介する観光案内所、特産物の販売コーナーが設けられているほか、2階レストランでは空知川を眺めながら芦別の味覚が楽しめます。また駐車場側のトイレは「星の降る里」を彷彿させる星の形がなかなかユニークです。

「星の降る里記念館」は市制100年を記念して建てられたもので、芦別の美しい星空をパソコン画面で再現するスタードーム、炭坑長屋の暮らしぶりが実感できるマジックビジョンなど充実した内容です。



■スタープラザ芦別

概要

路線名 ▶ 国道38号 所在地 ▶ 芦別市北4条東1丁目1番地

電話 ▶ 01242-3-1437 開設時間 ▶ 物産館 10:00 ~ 19:00

休館日 ▶ 物産館 月曜日(祝日の場合は翌日)

厚岸グルメパーク

●道東の南に位置する厚岸町は、カキをはじめとする新鮮な海の幸が自慢の町です。

「道の駅・厚岸グルメパーク」は町の中心を走る道道別海厚岸線沿い、JR厚岸駅の北側にあります。「グルメパーク」という名前の通り、レストランでは厚岸湖で育ったカキやアサリ、厚岸湾でとれる昆布などを素材にしたグルメもうなるおいしいメニューがいっぱいです。また2階には新鮮な魚介類を豊富にそろえた魚介市場や、市場で選んだ



材料をその場で焼いて食べさせる「炭焼あぶりや」があります。

駅内には厚岸湖、厚岸湾に生息する魚たちが鑑賞できるミニ水族館や展望台も設置されています。

■厚岸グルメパーク

概要

路線名 ▶ 道道別海厚岸線 所在地 ▶ 厚岸町字住の江町3-164

電話 ▶ 0153-52-4139 開設時間 ▶ 9:00 ~ 21:00

休館日 ▶ 月曜日(祝日の場合は火曜日) 年末年始